

2015年(平成27年)6月3日(水曜日)

中日新聞

仕入れから販売、会計まで

野菜や和菓子 ショップ好評

南木曾町の蘇南高校の二年生九人が、仕入れから販売まで生徒が手掛ける「チャレンジショップ」を南木曾駅前交流スペース「ミンツク」で開いた。パンや野菜、和菓子、アイスなど約五十点を販売し、呼び込みや会計などに苦勞しつつも店頭に立つ楽しさを学んだ。
(前田寛季)

学校での授業を現場で実際に試すのが目的で、経営ビジネス系列を選択した二年生を対象に毎年実施している。例年は南木曾駅前の屋外で開店していたが、商品によっては日差して傷むこともあるため、今回は昨年十一月に完成したミンツク内に店を構えた。生徒らは、週二回の課題研究の授業で販売する商品や価格を決め、仕入れでは県内外の事業所などと直接交渉。PR用のポスターやチラシなども製作し

南木曾の蘇南高生

て開店に備えた。

五月三十日の開店当日は、オープンした午前九時半から地元の人たちが次々に訪れた。トマトやキュウリが早々と売り切れ、好天に恵まれたため開田高原産のアイスクリームを買い求める人も多かった。

生徒らは法被姿でチラシ配りや呼び込み、販売、会計などの仕事を分担。通り掛かった人に来店を勧めたり、商品の魅力を説明したりと大忙し。売れ行きがいまひとつの商品は、仕入れ価格と比べながら値引きするなど、臨機応変に対応した。

販売を担当した岡田晃季君(む)は「ずっと立っていて足が疲れたけど、お客さんと話ができ楽しかった」とにっこり。生徒を指導した商業科の清水亜季教諭(む)は「ただ問題を解いてもつまらない。実際に仕事を体験をし、失敗しながら学んでほしい」と話していた。



法被姿で買い物客への対応に当たる生徒ら
―南木曾町の交流スペース「ミンツク」で